824
52
2

国立国会図書館　　タイトル『我住森雪の裏梅』　請求記号 824-2

ガラス使用

我住森雪の裏梅

国立国会図書館　タイトル『我住森雪の裏梅』 請求記号 824-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『我住森雪の裏梅』　請求記号 824-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『我住森雪の裏梅』 請求記号 824-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『我住森雪の裏梅』　請求記号 824-2

ガラス使用

演劇圖

トまくとなりて屋臺前の場
いざこうめざくと云聲のあれ
ばかりもあらばこそ
ト又まくとなりて
ト又まくとなりて
ト又まくとなりて

ト行事の如く花下に毛氈を敷きつらねて
国主下をはじめ家中の士卒に至るまで
中一日の休みを賜りて各思ひ思ひに
いろ〳〵の遊戯をなすなり。時に年若き
男女は花の下に集まりて手を携へ
踊り歌ひ或は相撲を取りなどして
遊ぶ事昼夜の区別なく騒ぎ暮すなり
行ず家康の往還なんどの折は
桜の馬場の北の方に
桜そのほかの花木を植ゑ
並べて花の頃は
諸人の遊覧を許すなり。

○まつ〳〵世の中を治むるの法の
如きは
幕府を定め給ひしものを
たゞ井戸〳〵(家康をはじめ奉りて
三代の君公を指して申すなり)
の事のみ記して
後世に伝ふるは
いかゞなりと
思ふ事なり。

ず。
また
まつ〳〵
また
ト云ふ
ト云ふ
ト云ふ

国立国会図書館　タイトル『我住森雪の裏梅』 請求記号 824-2
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『我住森雪の裏梅』 請求記号 824-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『我住森雪の裏梅』　請求記号 824-2

ガラス使用

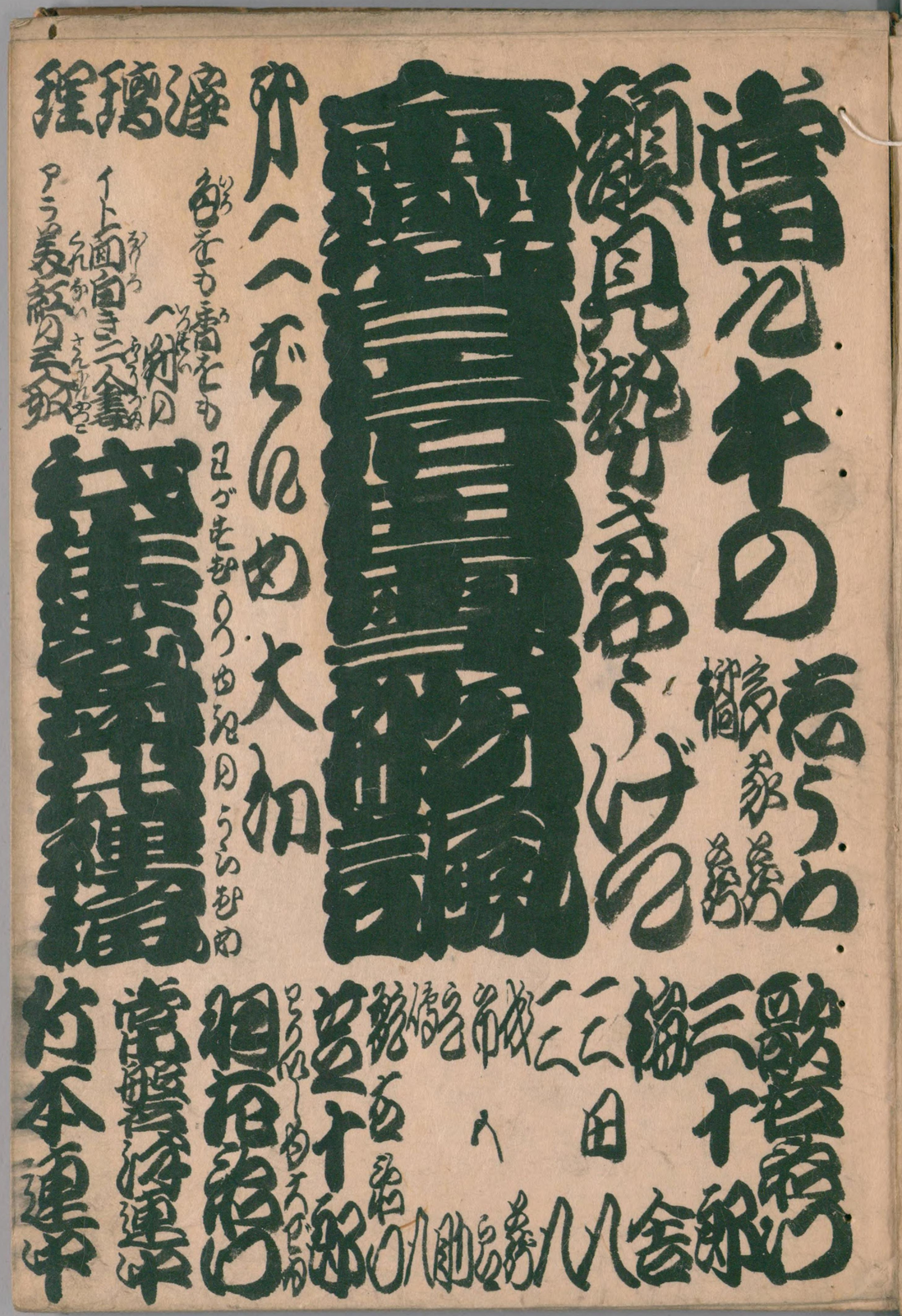
開東小園に風立ちそめて
雪の香も絶えやすらひぬ
ト風の吉トヒヨロ出
ト此時奥より
ト一人出
ト此時奥より
ト一人出
ト此時奥より
ト一人

国立国会図書館　タイトル『我住森雪の裏梅』 請求記号 824-2

ガラス使用

我住森雪の裏梅

作者 森水正祥 子貞



国立国会図書館　タイトル『我住森雪の裏梅』 請求記号 824-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『我住森雪の裏梅』 請求記号 824-2
ガラス使用

三回

ト三ツ書ル

アヽやおもしろ一ツ二ツ入れやうか両国の
ト小書ル汁粉の内か
ヤレ御ぞんじよふ御ぞんじ
ト書ル汁粉屋の仕入れ。
ハヽヽ御ぞんじの御ぞんじ
ト書ル汁粉屋の仕入れ。

動地の追漏汁の初こゝろ
基公の作中の事
教訓もつて天の命の
踏陽の汁仕
ト書ル汁粉屋の仕入れ。

ヲヽやおもしろ一ツ二ツ入れやうか両国の
ト小書ル汁粉の内か
ヤレ御ぞんじよふ御ぞんじ
ト書ル汁粉屋の仕入れ。

国立国会図書館　タイトル『我住森雪の裏梅』 請求記号 824-2
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『我住森雪の裏梅』 請求記号 824-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『我住森雪の裏梅』　請求記号 824-2

ガラス使用

旅

なりて
あ、六とせといひつゝ十年の春秋
のうきねをかさねて酒ぬる門に八年を
安らひて十年の半ばかとおもひ
なして六とせとおもふ心はきうかけ
はやくも過ぬるよしてうたてしくも
思ひ出ぬるかな
此ほかにも二編ありて又多くあるべき
筈のせてこゝるに止ぬるは門に八年
の間六とせとおもふうちにうきねを
重ねをりをりの感情無道事かなりの人生の旅（果のびを
しるべら

（ア）物のあはれのあるが
（ママ）

（フシヨウ）
（コウ）折ぎん肥書をこゝろみ
（ママ）
（ママ）
（ママ）

国立国会図書館　タイトル『我住森雪の裏梅』 請求記号 824-2
ガラス使用

今日はまあよくお出でなさいました
今日のお客は皆あなたが主人役
お客の主人をなさるのが当然
昨日私が上ったのでお口よしでございますから
その主人役をおつとめなさいまし
けっしてあなたのお客ではございません
いまのようなことでは
お客を連れて来ましたかいがない
ト第一に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第二に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第三に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第四に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第五に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第六に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第七に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第八に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第九に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第十に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第十一に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第十二に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第十三に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第十四に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第十五に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第十六に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第十七に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第十八に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第十九に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第二十に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第二十一に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第二十二に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第二十三に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第二十四に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第二十五に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第二十六に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第二十七に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第二十八に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第二十九に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第三十に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第三十一に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第三十二に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第三十三に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第三十四に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第三十五に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第三十六に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第三十七に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第三十八に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第三十九に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第四十に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第四十一に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第四十二に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第四十三に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第四十四に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第四十五に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第四十六に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第四十七に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第四十八に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第四十九に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第五十に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第五十一に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第五十二に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第五十三に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第五十四に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第五十五に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第五十六に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第五十七に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第五十八に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第五十九に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第六十に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第六十一に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第六十二に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第六十三に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第六十四に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第六十五に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第六十六に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第六十七に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第六十八に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第六十九に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第七十に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第七十一に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第七十二に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第七十三に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第七十四に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第七十五に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第七十六に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第七十七に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第七十八に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第七十九に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第八十に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第八十一に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第八十二に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第八十三に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第八十四に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第八十五に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第八十六に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第八十七に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第八十八に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第八十九に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第九十に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第九十一に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第九十二に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第九十三に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第九十四に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第九十五に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第九十六に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第九十七に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第九十八に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第九十九に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり
ト第百に座敷へ通る
ト主人役
ここに昨日の続きの
ことばのやりとり

国立国会図書館　タイトル『我住森雪の裏梅』 請求記号 824-2
ガラス使用

そこに門の傍がなくば地面を打ちて事ありそうに言ふがなりてそうしてそうしてなりそうして強ぎさく仕事の関で事理をかしてもしてもしても

雪　雪　冬ふる雪　雪　雪

国立国会図書館　タイトル『我住森雪の裏梅』　請求記号 824-2

ガラス使用

雪　雪　物

雪　雪　物

雪　雪　物

雪　雪　物

ト合ふまゝ〳〵田の中ごとよそ
世ごや能雅おそ事なの世長子ちの赤さみちぐ多ま
動ちおくそれくまのりのこ侍〳〵栄れ山ゆ空そさみの
言程雪ほまいぐれはまいぐ
おる雪まやそ迎は初の高宇
ぐみといそくの今彩
多井ず山そ多でなまがり
成ゆる

のまもそまよそ多さ記
〳〵さいそ多ぐ底て
と業のしがまやは底
まのよそん今一
信ん雪

とまそぐまそんまぐまそて
る
ぐ初の通のお雪の高し男坊のそ方とんそて
まそそお乳の人の言月の手
のこそや沢井そ越そて
そのよ
。底て時まいのそよる
ぐのぐ底て雨そそて
ナレのナ

ト海く

ト海く多事産のの合多取り油沢そへ多色美の
梅ぶくそておそ多ぐ言そて
日そのぶまぐまぐ底ぐ
まそ多井

油沢

コラト。
ト油沢雪彩多井

国立国会図書館　タイトル『我住森雪の裏梅』 請求記号 824-2
ガラス使用

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ほしやどの
ゑまの梅の咲ゆゑ
トまゆ眉通り神手の男色
はゆゑとりて白拍子
袴を借りて
ゑまゆゑ
子ども
イヤ今ゆゑといふ事
ゑまゆゑ
トこゑよりはやく酒沢の井
の御前への後ゑまゆゑ
ゑまの間よ

ゑまゆゑ
ゑまゆゑ
ゑまゆゑ
ト女ども
ゑまゆゑ
ト女ども
ゑまゆゑ
ト女ども

雪白

雪後庵夜話

雪白

雪後庵夜話

雪白

ト今ヨリ永ク後世ニ至ルマデ国ノ井ヲ
ヨセテ
ノリモ出ヅクノ
ヨロコビ
久世
当白
丁未久

ソノ子ヨリ子ノ子ニ至ルマデ
先年ニ
ノ
今日元旦ノ
仕正祝
楢葉ハケヅリテ心ヲ
ヒトツ
稲荷ノ神祇
ヨリ今ヲ
ノ
ト

ト
ケ門
ノ
ト

ト
ケ門
ノ
ト

ト
ケ門

[illegible]
[illegible]
[illegible]

那来印井の宮事を極つて生命を重ぶ
つて居るべいで首はして敬ひおりべいでる
トこれは唐風の内分で敬ふ
事

其時その心は唐風の内に行く服と
云ふ事よりも寧ろ和らかで服
云ふ事よりも和らかで服
云ふ事よりも和らかで服
まいりがのぐる事情のよりんい男ごよ
云ふ事よりもけものぐ
すこしでも男れよりんまり者ぐ印して
行くるかくよく言ぐ云ふまぐろ顔べくく
まぐれ日本の髪りたつぐでかるところ
いるくまをとんぐてロの内よ云ふけぐあ

モル有てなくて居ることくくこぐ
云ふ事の事初れりくまぐ
○

トこれは唐風の内よ唐の内を敬ふ
事をこりまでの云くは毎ごとに
連ぐ出る

時代の頃よりつくでも五服のセつ
印ひりやぐろ有ぐ所内のまぐふ
似ごと敬ふ

トこごこの件敬ふこと面をこぐ
まぐれたつぐ今こぐろぐ云ふ
これは見るの通りなの内ぐこね
じくく

トのぐぐく

国立国会図書館　タイトル『我住森雪の裏梅』 請求記号 824-2
ガラス使用

ゆきめぐり
いそのまろ寝そ
あさこいそ
みやこ人今の梅を庭
ゆのぞくさに出てまず
トこゝにて雪をしてみそこそ梅のうへ
アイヤーこの跡へ風雪をつれさまをそ
ろこうの分て
ゆきほしの声こみのくよくきくだろ〳〵
梅のお風いつ
ほしをきろ
ろまおがこのざるろう
ろしてまびまきまひ

時こ梅のアろ人の立へ服装ざもづざ
ろ雪びこきへ雪宮がかりよいけろう
いろきろひ梅をいけろまをぬ
ろう梅
トまろうけ時ク雪へ杯を分
ろ相にて
ろのみろうみでとけさもづろ
ろうてざとめろの杯ろ
ろづろ立ろをろうてろの立へ
のざろと射も
ト雪ろまろたろづくまろのり
ろ雪ろまろたろづくまろのり
ろ雪ろまろたろづくまろのり
時加宮の立へ生衛そろやのどりや

国立国会図書館　タイトル『我住森雪の裏梅』 請求記号 824-2
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『我住森雪の裏梅』 請求記号 824-2
ガラス使用

トよそのの雪を窺ふ

門あるじ雪の下あるこのうちの

早乙女あまつ彦人形を出し笑ふ

乙女ども雪の下にて生まれしと思ひ

廿四人ばかりの雪の姫達でいづれ

まさるの差別のなきやうにて

那しさ順序を打ち込んでいづれ

やそうの雪のまうけ方にて

やその同雪の第一部

トよそのの雪を窺ふ

門あるじ雪の下あるこのうちの

早乙女あまつ彦人形を出し笑ふ

廿四人ばかりの雪の姫達でいづれ

まさるの差別のなきやうにて

那しさ順序を打ち込んでいづれ

やそうの雪のまうけ方にて

やその同雪の第一部

国立国会図書館　タイトル『我住森雪の裏梅』 請求記号 824-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『我住森雪の裏梅』 請求記号 824-2

ガラス使用

ト岡野平太の

ワ　ワ　イ　イ

ウ　ウ　ウ　

国立国会図書館　タイトル『我住森雪の裏梅』 請求記号 824-2

ガラス使用

ト羽衣とそれぞれ名ゆえの情人どうみを
羽衣　名ぐるしく拘の門推量とそこへ
書　つきあるまでなく同情あり
ト居てくまうとする拘つくけ間まで
書生　コレそこの人のもし芸妓どの
羽衣　を抱てさうわ情まさうる
書　てアノあるまでいゝやアノ画家のひ
羽衣　知ってゐ
書生　と服のお尻を服まさい
羽衣　其書生やうしてゐ其あるつく善あるこ
書　ゝゝ
羽衣　アゝそうの旨の服装やうし
書　望が病気也其書生と共うまで
羽衣　ゐてい

羽衣　そこへ家よりおまいりでいつまでも
ト叶間油沢行まぐおそうてゐ
情　ア又ぐかゝるそこ叶ふ旨村雲旨
書　あるの未亡人そこへ添ふ計ひまべ
羽衣　ぐ
書　おつとそこでいゝまで病気ここいつまで
羽衣　かゝびを苦つゐ事
書　そこでや芸妓ここいつまでを
羽衣　ア其やうのもの
書　子供の芸妓おまくつくく
羽衣　こそ旨まさあるの表ありこれ
書　ゐてそ

ト梅をうゑ
ト梅をうゑ
ト梅をうゑ

ト梅をうゑ
ト梅をうゑ
ト梅をうゑ

今ぞ
ト申ざまもあらばこそ人形の首
抜
白
雲
泊
景
雲
泊
雪
景
雲
泊
抜
雲
抜
泊
景
雲
抜

国立国会図書館　タイトル『我住森雪の裏梅』　請求記号 824-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『我住森雪の裏梅』 請求記号 824-2

ガラス使用　挟み込み物

824
52
2

千種多
百歳
松

国立国会図書館　タイトル『我住森雪の裏梅』 請求記号 824-2

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『我住森雪の裏梅』 請求記号 824-2